



ハイウェイ九条を考える会



No 11 2010・3・1
連絡先 〒334-0001
鳩ヶ谷市桜町 6-13-16
森 克彦 048-283-3183
清水 昇 043-291-7293

ハイウェイ九条の会ホームページ <http://www3.nns.ne.jp/pri/toshi601/>

11・23 憲法勉強会

さおとめあい しぼれい
早乙女愛さん志葉玲氏の講演に
40名が集まる

2009年11月23日東京・中野のゼロホールで、ハイウェイ九条を考える会主催の憲法勉強会「平和ってなんだろう」に40名が集まり開催された。

勉強会は福岡在住のコスタリカ研究者・足立力也氏の予定でしたが、家族のアクシデントで急きよ足立氏の友人で東京在住の早乙女愛さんが「軍隊をすてた国」中米コスタリカを、志葉玲氏がイラクの現状を話された。

早乙女愛さんの講演は、彼女がコスタリカを取材して2001年に製作した「軍隊をすてた国」というタイトルのドキュメンタリー映画を紹介する形で進められた。ちなみにこの映画は彼女の父である「東京大空襲」著者の早乙女勝元氏が企画し、足立力也氏が現地取材のコーディネートをしている。

二十世紀、平和を守るのは軍事力と考えられその拡大は今も果てなく続く、そんな世界の流れの中で、このコスタリカでは1948年の不正選挙をめぐって内戦が勃発して二千名が死んだのを契機に、内戦に勝利した大統領は1949年に憲法第12条で「恒久的機関としての軍隊を禁止」した。同時に「集団的、個別的自衛権に基づいて軍隊が召集できる」ことを併記しているが現在までそれは発動されていない。

つまり軍隊をあえて「持たない」ことを最大の武器にしているわけだが、そのことをコスタリカの市民はどうみているか、この「平和維持装置」をどう支え運用しているのか、政治や教育の実態をつぶさに取材し映画にして世に訴えることにより、日本の九条改憲の動きに待ったをかけようというのがドキュメンタリー映画の制作意図であったという。

先生が「子どもの権利には何がありますか」と問いかけると「遊ぶこと!愛されること!」と口々に返す。さらに先生は「愛することは義務ですか」との質問に「違う、



「軍隊を捨てた国」コスタリカの講演を行う早乙女愛さん

イラクの報告を行う志葉玲氏

違う」。そして先生は「すべての人の平等の権利ですね」と応じる。

映画で紹介される小学校の社会の授業の一場面である。学校での平和教育はすべての科目で位置付けられているという。子どもの虐待や地域の水の汚染の問題など身近な問題を通じて、どうしたら平和に人間らしく暮らしていけるのかということを考えさせる教育に徹している。

積極的に平和を追求する上で、教育の大切さを再認識させられた。九条を持つ日本こそ見習うべき重要な視点ではないだろうか。

イラク戦争への監視継続を

フリージャーナリスト志葉玲氏からはイラク報告があった。

イラクの治安悪化は米軍などの駐留にあることやインド洋での日本の給油活動の違憲・違法性、サマワでの給水支援がいかにも有効でなかったかなどを現地取材を通してなまなましく告発し、イラク戦争への監視継続を訴えた。そして、自身が事務局長を務める「イラク戦争何だったの!? イラク戦争の検証を求めるネットワーク」への賛同人登録を呼びかけた。

アクセス先は
<http://isnn.tumblr.com/post/237220244>

悪夢—敗戦時の記憶

—読者より

親の仕事の関係で、私は小学校四年生の時、旧満州国の奉天（現中華人民共和国・東北地区瀋陽）に渡り中学一年生の夏・当地で敗戦を迎えた。

中学に入学すると同時に、もっぱら軍事教練に明け暮れると同時に、郊外の原野に出向き、毎日塹壕掘りに従事した。これはソ連軍の満州侵攻に備え、各自爆弾を抱えソ連の戦車に肉薄する為のものであった。戦争は末期になった狂乱の時代であり、子供心ながらそんな形で死んで行く事に余り違和感を感じていなかったのが不思議でならない。教育とは恐ろしいものである。

ソ連の参戦がもう少し早かったらわれわれはあの荒野で死んでいった事だろう。

ビンラディン流の自爆行為が特攻隊として賛美された狂気の時代だったのである。

ともかく終戦直後から、我々日本人は中国人からどんなに危害を加えられても訴えていく処もない無政府状態の日々が続く専ら自己防衛するしか方法はなかった。

侵入してきた軍隊は毛沢東軍・蒋介石軍・ソ連軍と続き恐怖の日が続いた。

女性たちは顔に墨を塗り、断髪して男装していたが、それでも何人かが連れて行かれそのまま帰らなかった。また多くの日本人の家が暴徒に襲われ家財を収奪された。私の家も馬車を伴った数十人の暴徒に襲われ、衣類・家具に至るまで根こそぎ持って行かれた。どんなことをされても訴えようもない無政府状態で、殺されなければいいと言う殺伐とした環境だった。

当時の中国の為政者はなぜか、日本統治時代の日本の警察官僚を狙っていた。友人の父親の警察署長は危険を察知して雲隠れしていたが、結局は見つけ出され、凍結した大河の上で公開処刑され、遺体は遺族も引き取れなかった。

このような環境の中で、みんなの唯一の夢は何時祖国に帰られるかという一点に絞られていた。明日にでも帰れるというようなデマが度々飛び交い、その度に、現金は持って帰られないので、有り金を使ってしまおうという生活を繰り返し、最後のころは路上で中国人相手に饅頭を売ったりして生き延びる状況にもなった。

結局こんな生活を一年半続け、何とか生きて帰れた

わけであるが、その間何度も危機を潜り抜けながら、よくぞ帰れたものだと今でも思っている。

当時幼児だった連中は親も面倒を見切れず、途中で死なすよりもいいと判断し、心を鬼にして中国人に預けてきた人も多い。これが現在も続いている残留孤児の問題である。

帰国するに当たっては、長い道のりを歩かされ、広い満州大陸を無蓋車（貨車）に詰め込まれ、何日もかけ南下したが、機関手の中には、トンネルの中でわざと停車させ、その間真っ黒な噴煙を出し、再度動かすために我々難民からチップをせしめる悪い奴もいた。途中方々の工場跡地のような処で何泊もしながら南下したが、幼児や病弱者は次々に亡くなって行った。給食らしきものも出たが、今なら猫でも食わないようなシロモノだったが皆その配分について、その多寡を争った。こんな環境になると、人間も浅ましいもので、犬猫と同じ世界になるのである。

長い旅を終え日本を目の前にして息絶えて亡くなった人も多い。これらの人は水葬と称し、何体も海に流された。いろいろと書けばきりがなが、要は戦争など決してしてはならないと言う事だ。それと同時に、国の体制が崩壊するという事がどんな事になるのか、そのような時に関係する外地に居た場合、その悲哀をいやが上にも痛感するのである。

分かりやすい憲法に改正すべき

私は昔から素朴な憲法改正論者である。特に現憲法第九条については絶対改正すべきだと思っている。何故ならば国の自衛権や交戦権等、自国を護るための基本的規定が極めて曖昧だからである。現憲法では自衛隊の存在すら素直に認められない文面となっていて、この点だけでも現憲法は死文化している。自衛権、交戦権等、独立国家として当然認められるべき権利についても、現憲法はその解釈についてもさまざまに別れ、万一他国の侵略を受けた場合、收拾がつかない事態になることが目に見えている。

要は憲法が曖昧であるため、国も国民もこのような緊急事態に対応する能力も気力も持ち合わせていないのである。おそらく、そのような事態になればアメリカが助けてくれるものと確信しているのだ。

現憲法の崇高な理念は、他国もすべて善良な国家であれば問題はない。しかし我々を取り巻く現実はずきあればこそと禿げたかのように他国の弱点を狙っている国ばかりと云っても言い過ぎではない。このような環境の中で一人日本のみが聖人君子であり続けること

（3面に続く）

は至難の業である。このような世界の現実の中にあつては、悲しいことながら、我が国も相応の軍備を持ち、一旦緩急ある場合、国民が自ら自国を護る力と気概を持てる様、独立国家として至極当たり前の解りやすい憲法に改正すべきである。

敗戦後、我が国は米軍の核の傘の下で辛うじて平和を享受しているが、その代償として世界的な大きな動きについては、米国の意志に反して行動することは困難な状況に置かれている。この点ではわが国は真の意味の独立国とは云えない。この点が我々国民の自尊心を傷つけ、また諸外国からは、この日本のアメリカに対する従属的な態度にヒンシュクを買っているのである。

誤解されないために強調するが、確固たる防衛力と自衛心を持つということは、好戦的であれと云うことでは決してない。勿論、侵略戦争のごときは絶対してはならない。私は子供時代に旧満州から引き揚げてきた苦難の体験を通じて、このことを声を大にして叫びたい。だから、我々が持つべき軍隊は厳格なシビリアンコントロールのもとに厳しく管理し、また国際的な軍事協力については国連の決議が絶対的な必要条件である。

人間の行為の中で戦争ほど愚かな行為はない。それでも人間は何時も戦争に巻き込まれてきた。戦争するということは人間にとって宿命的な業のようなものかもしれない。今も中東を中心に戦争や紛争の絶えた日がないという悲しい現実がある。



OB 人生と憲法 9 条

山梨県 小沼 俊彦

「思い起こせば恥ずかしきことの数々・・・」とは、映画「男はつらいよ」車寅次郎の名セリフである。日本道路公団に 40 年、さらに民営化された高速道路株式会社会社に約 2 年関わり、晴れて OB となった。まさに

寅さんの心境がぴったりなのである。寅さんほど日本中を転勤して歩いたわけではないが、千葉県銚子に始まり、横浜、甲府、長野県中野市と日本列島を横断し、最後は富山・新潟と日本海に出てしまった。

一番長かったのは、工事事務所での用地買収だった。何を隠そう昨夜、建物補償の積算書類前にして立ち往生している夢を見たのだ。気にもとめず忘れていたが、何やら広大な用地買収予定地図面のようなものの夢を何回も見ているような気がする。

交渉話がうまくいっていることはなく、いつも立ち往生なのである。あれれ、自分はそんなに真面目に働いていたかなあと思うのである。

確かに行く先々で土地は買った。それで道路は出来た。しかしそれは結果であって、自慢できるようなものではなかったのだ。

そういう大きい話ばかりではない。若いころバイクに乗っていて、崖から転落し、抜け出そうと苦闘していたら、どこからか親子と思われる男性二人が現れ、助けてくれたのである。お礼をしなければならぬ場面だが、呆然としていて対応ができない。そのうち二人は行ってしまったではないか。問題は、そのとき、なぜちゃんとお礼をしなかったのか、なんて後悔の念が深夜トイレに起きたあと、脳裏を支配するのである。さらに、子供のころいじめた下級生のことまで浮かんで来て、また気持ちが萎えたりする。

昭和初期の大恐慌のころ、小林多喜二の「蟹工船」は書かれたという。その後、小林は特高警察につかまり拷問により殺された。そしていままた、未曾有の大不況である。幸いなるかな特高警察はいない。

まさか多喜二を虐殺した特高警察は生きていまいが、彼らのその後の人生はどうだったかと思うのである。

南京大虐殺のことも次第に明らかになってきたが、投降してきた中国兵の処置に困り、かれらを河原に集め殺したのである。これには中国側の生き残りは一人もいないのだ。だから「南京虐殺はなかった」なんていう輩がいるのだが、やった日本人が口を開きだしたのである。こっちはまだ実行者が生き残っているのだ。

イラクに派遣されたアメリカ兵や自衛隊員に、自殺者が出ているという。心が病んでしまったのである。

戦争では、加害者も被害者もどっちも犠牲になる。昔、下級生をいじめた程度のことで良心の呵責にさいなまれるのだ。もし、戦争で人を殺したら、と思うとぞっとするのである。

人間は弱い生き物である。憲法 9 条は、弱い人間が戦争に関わらなくても済むように誓い、それを世界に発信したのである。

新インフルエンザ流行に悲 しい物語が (丹後大仏の話)

.....京都市...西村...正弘.....

天橋立の北、丹後半島の伊根町に、石像の丹後大仏がある。丹後ちりめんの里・筒川村には製糸工場があった。1, 919年従業員が10日間の東京への慰安旅行に出かけた。当時の丹後は、京都に出るだけでも一日仕事の時代、東京旅行は胸おどる大旅行。若い女工さん達にとって楽しい旅行となるはずでした。ところが、参加した116人のうち女性42人が当時の新インフルエンザ「スペイン風邪」によって亡くなるという悲劇となり、社長は心を痛め、死亡者の霊を慰めるため、青銅の大仏と42人の招魂碑を建て、周辺は公園として整えられ、村人達が手を合わせていたという。

太平洋戦争も敗色が濃くなった1, 944年、軍から金属供出の命令が出され、村人は「大仏さんだけは勘弁してほしい」と願い出ましたが、「軍の命令は朕の命令」として抵抗は許されず、ついに強制譲渡令が出されてしまったという。村人は再び悲しみに落とし入れられました。

大仏の応召のとき、村人はせめてもと、出征する兵士のように赤いたすきを掛け、仏に清酒を注ぎ別れを惜しんだそうだ。

死者が女性ばかりであったため、特に村の女性達の心のよりどころであった大仏を失うことへの落胆は大きく、悲しむその姿を見かねた長老は、一年

後に大仏そっくりの石仏を地元の石工に造らせたという。それが現在の丹後大仏である。伊根町は鯛の日本三大魚場としても、また、舟屋といわれる独特の建築などで有名ですが、山間部にある丹後大仏に足を運ぶ人は少ない。私は友人を案内するときは、ここを欠かさないようにしている。先日も千葉の習志野からの夫妻を案内したところ、長時間手を合わせておられました。それは、悲惨な疫病と戦争の証人としての二代目大仏が多くの歴史を語ってくれると同時に「平和こそ一番」と私たちの心に静かに訴えかけているからだろうと思いました。皆さんも機会があれば、丹後の大仏を訪れてみませんか。

戦争に召され、武器となった丹後大仏、赤いたすきが掛けられている
(京都新聞より)



主な出来事

- ◎ 12月1日、オバマ米大統領はアフガニスタン新戦略について演説し、来年上半期までに3万人を増派兵するとともに「アフガン治安部隊への権限委譲が進展すれば11年7月には撤退開始が可能になる」とした。アフガン駐留米軍は今年3万3千人増派され、現在6万8千人。今回の決定で駐留規模は10万人規模と、政権発足時の3倍となる。
- ◎ 12月28日、民主、社民、国民新の与党3党は幹事長国対委員長会議を開き、民主党が提示した官僚答弁の禁止を柱とした「国会改革」関連法案の骨子を了承した。同法案を通常国会に提出し成立させる方針で、年明けに法案要綱を野党各党にも提示しようとしている。
- ◎ 1月24日、沖縄・名護市長に辺野古新基地の受け入れに反対する稲嶺氏が当選した。
- ◎ 1月28日、参院本会議で第二次補正予算が成立した。補正予算には、12億円のNATOのアフガニスタン国軍信託基金があり、この基金への拠出を通じて、名目は医療名目だがアフガニスタン国軍への費用支援をしている。特定国の軍隊への財政支援というのはかつてなかったことであり、憲法9条をもつ日本としては許されないもの。

編集よりお知らせ

会報に対するご意見を広く募集
します。

会の活動費の大部分は、「会報」の発行・送料に使われています。協賛金にご協力をお願いします。
協賛金振込口座 ちば興業銀行 佐原(さわら)支店・(店番号820)
口座名義 西岡幸雄(ニシオカユキオ) 口座番号 普通預金 1016510